

ハーモニー

Harmony

第95号 2024年11月14日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

General Incorporated Associations

Japanese Association of Yogo Teacher Education

(一社) 日本養護教諭教育学会

事務局：〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

TEL 03-6824-9398

FAX 03-5227-8631

振替口座：00880-8-86414

jayte-post@as.bunken.co.jp

目次

第32回学術集会（茨城）へのお誘い……………1
第32回学術集会プログラム……………2
第32回学術集会のプレングレス（ご案内）……5
一般社団法人日本養護教諭教育学会第2期（2024～ 2026年度）代議員の選出結果について（報告）……5
第4回（2024年度）定時総会（代議員総会）の開催について（予告）…6

「養護学の構築にむけたプロジェクト」について（第一次報告）…6
第1期（2021年度～2023年度）役員による3年間の 振り返り……………7
理事会の議事について（報告）……………8
事務局からのお知らせ……………8
編集後記……………8

第32回学術集会（茨城）へのお誘い

学会長 松永 恵（茨城キリスト教大学）

紅葉の季節を迎え、学術集会の開催日が近づいてまいりました。今回も対面参加とオンライン参加のハイブリッド（ポスター発表等一部を除く）で実施いたします。

メインテーマは「養護教諭の実践を省察し知を創造する—ジレンマの意味を問い直す—」です。よりよい養護の追究に余念のない日々をお過ごしであろう皆様に、日頃の対応を振り返り、おひとりおひとりがお持ちの「知」に気づいていただき、共有したいと思っております。

学術集会1日目（12月7日（土））は、開会に先立ち、午前中に理事会主催のプレングレス「今問われている、子どもたちのウェルビーイングを考えよう」を行います。学術集会は学会長基調講演「養護教諭の実践を省察し知を創造する—ジレンマの意味を問い直す—」から始まります。毎日何気なく行っていることが、養護教諭ならではの「知」を創造していくことを予感してください。特別講演「ジレンマの意味を問い直す—問題の解決から問題の設定へ—」では、「省察的实践」で有名なD.A. ショーンの著書を翻訳され、対人関係職をはじめとした「おとなの学び」をご研究されている三輪建二先生に、ネガティブに受けとめがちなジレンマを捉え直したくなるようなお話を伺う予定です。続くシンポジウム「教室に帰すというジレンマの意味を問い直す」では、「教室に帰す」という対応を見つめてみたいと思います。子どもは保健室を訪れ、自分で決めて教室に帰っていくこともあります。そうではない時があります。モヤモヤを感じることはありませんか。幾度となく行っ

てきた対応をじっくり振り返っていきましょう。養護教諭、長く学級担任を経験してきたスクールアドバイザー、教育学の研究者、3名のお考えをお聞きし、私たちの対応を振り返り、交換し、「知」を見出していきたいと思っております。

2日目（12月8日（日））は、午前中に一般演題（口演11題、ポスター4題）、研究助成金研究「養護教諭が心に健康問題を抱える子ども支援において連携・協働を促進する要因の検討」の発表、「養護学の構築にむけたプロジェクト」の報告を行います。ランチョンセミナーのうち、「小児がん・AYA 世代当事者の気持ち—がんになっても自分らしく安心して生きられる社会の実現を目指して—」は対面参加のみとなりますが、学校で生活する小児がんの子の気持ちを直接お話いただく予定です。もう一つの「学校におけるてんかん発作への対応」は、対面・オンライン共参加可能で、最新の知見をお話いただき、疑問にも答えていただく予定です。午後は、総会報告の後、対面参加のみですがワークショップを行います。「養護教諭の多職種連携コンピテンシーの育成—みんなで考える！入職後の課題解決に生かせる教育プログラム—」では様々なお立場からの自由なご発言をお待ちしております。「保健室×ICT—体験！養護教諭のICT実践—」では、パソコンを持ち込み、様々な可能性に挑戦していただきます。展示は最大5件、2日目には医療的ケアの体験を用意しております。

多くの皆様のご参加を心からお待ちしております。

【問い合わせ】

事務局：聖徳大学心理・福祉学部

社会福祉学科 湯原 裕子

E-mail：jayte32th@gmail.com



一般社団法人 日本養護教諭教育学会 第32回学術集会 プログラム

メインテーマ：養護教諭の実践を省察し知を創造する—ジレンマの意味を問い直す—

期 日：2024年12月7日(土)・8日(日)

会 場：茨城キリスト教大学と Zoom 配信によるハイブリッド開催（一部対面のみ）

《2024年12月7日(土)》

◆プレコンgres (10:00～11:30) C会場 8201講義室 及び Zoom 配信 …………… 理事会
「今問われている、子どもたちのウェルビーイングを考えよう」

◆受付 (11:30～) 1階エントランスホール

◆開会 (12:50～) A会場 8101大講義室 及び Zoom 配信

◆学会長基調講演 (13:00～13:40) …………… 座長 大川 尚子 (京都女子大学)
「養護教諭の実践を省察し知を創造する—ジレンマの意味を問い直す—」 松永 恵 (茨城キリスト教大学)

◆特別講演 (13:50～15:20) …………… 座長 松永 恵 (茨城キリスト教大学)
「ジレンマの意味を問い直す—問題の解決から問題の設定へ—」
講師 三輪 建二 (昭和大学認定看護師教育センター 客員教授)

◆シンポジウム (15:30～17:30)

テーマ：「教室に帰すというジレンマの意味を問い直す」

コーディネーター 齊藤ふくみ (北翔大学)

米嶋美智子 (志學館大学)

シンポジスト 高橋 裕子 (小美玉市立竹原小学校)

笹原 昌子 (せたな町教育委員会)

庄井 良信 (藤女子大学)

◆情報交換会 (18:00～) 茨城キリスト教大学 学生会館

《2024年12月8日(日)》

◆受付 (9:00～) 1階エントランスホール

◆一般演題発表

< C会場 8201講義室 及び Zoom 配信 >

口演発表 I (9:30～10:10) …………… 座長 高田恵美子 (畿央大学)
【養成教育】

I-1 キワニスドール作成が学生に与えた教育的効果—養護教諭志望学生1年次の振り返り記述の分析から—
○齊藤ふくみ (北翔大学)

I-2 保健室対応場面における熟練養護教諭経験者と養護教諭志望学生の実践的思考様式に関する比較研究
○岩橋 花季 (北翔大学)、他

口演発表 I (10:10～11:10) …………… 座長 工藤 宣子 (千葉大学)

I-3 学生の認知の変容を可視化する試み—養護教諭の職務や求められる能力に対して—
○竹内 理恵 (徳島文理大学)、他

I-4 養護教諭養成課程学生の専門性を高める教育内容の検討
—知的および発達に障害がある子どもへの関わりから—

○辻 京子 (四国大学)、他

- I - 5 養護教諭に求められる臨床推論能力を育むための看護臨床実習の展開
ーフィジカルアセスメントと看護コミュニケーションのリンケージー
○諏澤 宏恵（花園大学）、他

< D会場 8202講義室 及び Zoom 配信 >

口演発表Ⅱ（9:30～10:30）…………… 座長 上原 美子（埼玉県立大学）

【その他（外国人対応、別室登校支援、性教育）】

- Ⅱ - 1 外国人散在地域における養護教諭の対応の現状と課題
○本堂 未来（新潟大学養護教諭特別別科）、他
- Ⅱ - 2 小学校別室登校支援に携わる教職員の疲弊感の実態調査ー質的データ分析手法 SCAT を通してー
○雨宮麻衣子（二葉むさしが丘学園）
- Ⅱ - 3 各自治体の学校における性教育の手引きの作成実態と特徴
○吉村 知容（四天王寺大学）、他

口演発表Ⅱ（10:30～11:30）…………… 座長 留目 宏美（上越教育大学）

【原論・歴史】

- Ⅱ - 4 養護教諭の職業的アイデンティティ形成プロセスに関する研究
ー第2報 中堅養護教諭へのインタビューを追加してー
○西川 深雪（北海道教育大学附属函館中学校）

【養護実践（保健管理）】

- Ⅱ - 5 AAR サイクルを取り入れた教員研修の効果の検討
○藤井 雪恵（名古屋市立白沢小学校）、他

【養護実践（健康教育）】

- Ⅱ - 6 保健室におけるキワニスドールを用いた対応事例についての一考察
ー小学校および中学校の腹痛対応ー
○古屋 淳子（札幌市立丘珠小学校）、他

< B会場 8103講義室 >

ポスター発表（9:30～10:10）…………… 座長 竹口 洋子（園田学園女子大学）

- P - 1 養護教諭養成課程学生の看護学に対する興味に関する研究
○浜中のり子（八戸学院大学）、他
- P - 2 A 高校における生理用品の設置配布による効果についての一考察
ーオンライン調査による生徒のニーズの把握からー
○圓岡 和子（愛知教育大学附属高等学校）、他

ポスター発表（10:10～10:50）…………… 座長 今富久美子（神奈川県立藤沢工科高等学校）

- P - 3 学校の性教育に対する保護者の認識ーイメージやニーズに関する調査からー
○岸本 歩実（横浜市立左近山特別支援学校）、他
- P - 4 幼稚園及び幼稚園型認定こども園における養護教諭が行う歯磨き指導の実態
○山田悠帆里（大阪総合保育大学大学院）

< A会場 8101講義室 及び Zoom 配信 >

◆研究助成金研究発表（10:50～11:20）…………… 座長 籠谷 恵（杏林大学）

「養護教諭が心に健康問題を抱える子ども支援において連携・協働を促進する要因の検討」

○岩崎 和子（北海道教育大学）

◆「養護学の構築にむけたプロジェクト」報告（11:20～11:50）…………… 座長 小林 央美（前弘前大学）

○徳山美智子（元大阪女子短期大学）、他

◆ランチョンセミナー (12:00～12:50)

ランチョンセミナー① C会場 8201講義室…………… 座長 館野 智子 (龍ヶ崎市立城之内小学校)
「学校におけるてんかん発作への対応」(対面・Zoom 配信)

講師 奥村 彰久 (愛知医科大学医学部小児科学講座 教授)

ランチョンセミナー② D会場 8202講義室…………… 座長 圓岡 和子 (愛知教育大学附属高等学校)
「小児がん・AYA世代当事者の気持ちーがんになっても自分らしく安心して生きられる社会の実現を
目指してー」(対面参加のみ)

モデレーター 小口 浩美 (一社LINKOS 共同代表)

パネリスト 岸田 徹 (NPO がんノート代表理事) 清水 唯衣 (公立中学校)

◆総会報告 (13:00～13:20) A会場 8101講義室 及び Zoom 配信

◆ワークショップ (13:30～15:00)

ワークショップ① C会場 8201講義室

「養護教諭の多職種連携コンピテンシーの育成ーみんなで考える！入職後の課題解決に生かせる教育
プログラムー」(対面のみ)

講師 宇佐美尋子 (聖徳大学) 湯原 裕子 (聖徳大学)

横井 葉子 (聖徳大学) 小林 芳枝 (聖徳大学)

ワークショップ② D会場 8202講義室

「保健室 × ICTー体験！養護教諭の ICT 実践ー」(対面のみ)

講師 阿部 大樹 (立川市立西砂小学校 養護教諭)

【学術集会に対面で (会場で) 参加される方へのご案内】

○交通

会場：茨城キリスト教大学 〒319-1295 茨城県日立市大みか町 6 丁目11- 1

高速道路を利用する場合：常磐自動車道「日立南 IC」で降り、「日研入口」交差点で海側の細い道に入る。
北門 (守衛所がある) を利用してください。

JR の場合：品川・東京・上野駅から常磐線に乗車、「大甕 (おおみか) 駅」下車徒歩約 5 分

○1 日目の昼食について

小さなコンビニが駅構内にあり、それ以外、会場内及び駅周辺にはありません。

1 日目の昼食はご持参いただくか、「おにぎり弁当」の事前申込 (600円) をお勧めします。

○ワークショップ

2 日目には 2 つのワークショップを予定しています。事前申込にて選択してください。当日のご参加も可能です。

ワークショップ②「保健室 × ICTー体験！養護教諭の ICT 実践ー」に参加される方は、可能な範囲でパソコンをご持参ください (スマートフォンでも参加は可能です)。会場では Eduroam <Eduroam> を使用できます。Eduroam に加入している大学等から来場する方は、各大学の情報部門にて予めご確認ください。それ以外の方は、当日、受付付近で入力情報を示しますので、必要時、ご利用ください。

Eduroam のご案内→ <https://www.icc.ac.jp/campus/ict/eduroam.html>



○託児

本学術集会では託児利用が可能です。お申込みはできる限り早めをお願いします。

●関連行事

* 2024年12月 6 日 (金) 16:00～17:30に、第 4 回 (2024年度) 定時総会 (代議員総会) を開催します。

* 同日18時から、新旧の理事及び評議員、監事、委員会委員の情報交換会を水戸駅近くで行います。

◇◇◇◇ 第32回学術集会のプレングレス ◇◇◇◇

「今問われている、子どもたちのウェルビーイングを考えよう」の開催について(ご案内)

理事会

<開催趣旨>

不登校やいじめ、貧困など、子どもたちの抱える課題が多様化・複雑化する一方、将来の予測が困難と言われる時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていくこと(持続可能な社会の創り手の育成)や、一人一人のウェルビーイングを高め、社会全体のウェルビーイングの向上を目指すこと(日本社会に根差したウェルビーイングの向上)の重要性等が議論され、2023年6月に閣議決定された「教育振興基本計画」の総括的なコンセプトとして位置づけられました。

そこで、本学会では、2023年度事業として「子どもたちのウェルビーイングを支える」セミナーを3回(①仙田富久氏「スクールソーシャルワーカーの立場から～活用・協働そして課題～」、②早川麻耶氏「児童精神科における治療と養護教諭との連携」、③前野隆司氏「子どものウェルビーイングについて」)開催しました。

これらをふまえて、第32回学術集会におけるプレングレスでは、セミナーでの学びを振り返るとともに、子どもたちのウェルビーイングとは何か、学校教育におけるウェルビーイングとは何かなどについて、それぞれの立場からの意見交流を通して考えたいと思います。

<開催日時>

* 2024年12月7日(土) 10:00～11:30 / C会場

* 対面にて実施、Zoom 配信あり

(詳細は学会HPをご覧ください。)

<進め方>

これまでに行った3回のセミナーについて総括して情報を共有した後、子どもの健康課題にかかわる事例を上げ、それをもとにグループ別の協議(フリーディスカッション)を行う予定です。

★プレングレスは、学術集会(コンGRESS)の活性化を目指して、学術集会開催の前(プレ)に行われる企画です。

本学会のプレングレスは事前申し込みの必要がなく、会員のみならず、会員外の方も参加できます。

全国から集っていらっしゃる皆さんと自由に意見交流できる場です。是非、ご参加ください。



一般社団法人日本養護教諭教育学会

第2期(2024～2026年度)代議員の選出結果について(報告)

選挙管理委員会

委員長：西岡かおり

委員：一期崎直美、加納 亜紀、香田 由美

本学会の定款第15条で規定しています「代議員の選出」について、本年2月22日の告示(ハーモニー第93号掲載)のとおり、7月25日(木)から8月9日(金)に選挙を行いました。

地区別の有権者数(2024年4月30日までに2022年度年会費を納入した人)、被選挙権者数(有権者のうちで2020年度から3年以上会員である人)、代議員定数(有権者の1割以内で端数切り捨て)、投票率は下記のとおりです。有権者の皆様には、投票へのご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

地区	有権者数	投票率(%)	被選挙権者数	代議員定数
北海道・東北	65	30.8	55	6
関東	133	25.6	118	13
中部	109	47.7	96	10
近畿	75	36.0	63	7
中国・四国	65	33.8	56	6
九州	46	30.4	41	4
全体	493	34.3	429	46

各地区から次の方々が選出されました。氏名は五十音順、()内は会員番号です。所属は紙面の都合上、学会HPに記載しました。

【北海道・東北】新谷ますみ(724)、今野 洋子(290)、岩崎 和子(814)、齊藤ふくみ(43)、面澤 和子(446)、山崎 隆恵(122)

【関東】荒川 雅子(426)、荒木田美香子(817)、植田誠治(124)、上原 美子(623)、遠藤 伸子(262)、大沼久美子(711)、籠谷 恵(1196)、鎌田 尚子(11)、亀崎 路子(775)、齋藤 千景(882)、鈴木 裕子(117)、松永 恵(1043)、三森 寧子(1217)

【中部】浅田 知恵(740)、井澤 昌子(341)、石田 妙美(194)、加藤 晃子(1231)、河田 史宝(281)、後藤ひとみ(16)、下村 淳子(132)、塚原加寿子(1287)、留目 宏美(938)、圓岡 和子(547)

【近畿】大川 尚子(481)、大野 志保(922)、北口 和美(383)、高田恵美子(1298)、徳山美智子(242)、平井 美幸(622)、古川 恵美(944)

【中国・四国】池添 志乃(1389)、沖西紀代子(970)、奥田紀久子(409)、西岡かおり(571)、三村由香里(331)、棟方 百熊(464)

【九州】一期崎直美(986)、古賀由紀子(83)、松崎美枝(1340)、松田 芳子(72)

一般社団法人日本養護教諭教育学会

第4回(2024年度)定時総会(代議員総会) の開催について(予告)

理事長 後藤ひとみ

本学会の定款第22条の規定により、下記日時にて定時総会を開催いたします。

前項で公表しました新・代議員の皆様には、会日の2週間前までに招集通知等を送らせていただきます。ご多用のことと思いますが、ご出席の程をお願いいたします。

○開催日時：2024年12月6日(金) 16:00～17:30

○開催会場：BIZcomfort 水戸(水戸駅北口徒歩1分)
会議室3

○開催方法：現地参加(オンラインなし)

○主な議事：2023年度事業報告、2023年度決算報告、
2024年度事業計画案、2024年度予算案、
会員規程等の一部改正、2024年度理事の
選出、第34回学術集会開催地等

●なお、会員を対象として、第32回学術集会の2日目13時から20分程度の「総会報告」をいたします。詳細は学会HPをご覧ください。

「養護学の構築にむけたプロジェクト」 について(第一次報告)

代表 徳山美智子(元大阪女子短期大学)

副代表 小林 央美(前弘前大学)

同 留目 宏美(上越教育大学)

「養護学の構築にむけたプロジェクト」は2024年5月3日に始動しました。同年9月29日の理事会までの間を第一次の活動期間と位置づけ、当理事会に報告書を提出できるよう取り組んでまいりました。全メンバーの多大な尽力により、『養護学』の構築にむけた報告書第一次『養護学』への接近」を提出することができました。概要は第32回学術集会において報告いたします。当日参加が叶わない皆様もいらっしゃるであろうことから、第一次の活動から得られた知見と諸課題の一部を以下に記します。

◆マネジメントグループ「『養護学』への接近に向けて」
リーダー：プロジェクト代表、メンバー：副代表2名
「養護学」への接近に向けて、①養護に関する優れた知見や技能を裏付ける「理論」から養護の独自性を一般化する、②養護教諭の実践知のみならず、「養護学」に依拠した実践を構築する、③現行の学問分類論を踏まえ、「養護学」の独自性・固有性を主張する必要がある。

◆ワーキンググループ1「教育学・心理学・医学・看護学の参照基準からみた学問の枠組み」

リーダー：籠谷 恵(杏林大学)

メンバー：一期崎直美(西南女学院大学)、
高田恵美子(畿央大学)

「養護学」の近接領域(教育学・心理学・医学・看護学)から学問の基本的な捉え方を整理した。主要な枠組みとして①概念、②対象の範囲、③主要なアプローチの区分・体系、④他分野との関係、⑤固有の視点、⑥役割が見出された。この枠組みを参考にして先行研究を分析し、「養護学」の固有性を検討する必要がある。

◆ワーキンググループ2「養護学とは」

リーダー：北口 和美(元大阪教育大学)

メンバー：鎌田 尚子(元女子栄養大学)、
中村 朋子(元茨城大学)

「養護学」を「養護の実践を支える理論と知識と技術の体系であり、養護教諭が児童生徒等の健康教育と健康管理によって発育・発達の支援を行うすべての教育活動に必要な養護の本質を捉えた養護の実践を体系的に示すもの」と定義し、普遍的で共通した理念・考え方を述べた。今後、さらに内容を吟味する必要がある。

◆ワーキンググループ3「健康教育に関する実践報告論文に内在する養護の本質—実践者の視点による分析—」

リーダー：外山 恵子(愛知教育大学非常勤)

メンバー：齊藤 久子(嘉麻市立稲築東義務
教育学校)、中森あゆみ(神戸市立
福住小学校)

健康教育に関する実践報告論文から養護を構成する諸要素を抽出した。「子どもの健康課題に向き合いながら支援する」、「健康教育実践において様々な工夫をする」等のカテゴリーが生成された。今後さらに分析対象論文を広げ、養護を構成する要素の抽出や検証に取り組む必要がある。

今後とも本プロジェクトへのご理解・ご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。



一般社団法人日本養護教諭教育学会

第1期(2021年度～2023年度)役員による 3年間の振り返り

法人化後初めてとなる第1回定時総会(代議員総会)は、初選挙で選出された代議員51名によって2021年11月14日に開催され、選挙による理事10名と推薦による理事7名を加えた17名を選出し、さらに監事2名を選出しました。

法人化後の第1期事業の重点は、一般社団法人の諸規程に則った運営体制の整備、会員への情報提供の充実、会員参加による会務の活性化等でした。これらの実現にむけて、今期は4つの委員会に評議員や会員の方々にご参加いただきました。各委員会の長でもある常任理事の方々とは時間をかけて常任理事会で協議し、その事項をもとに理事会で審議するという流れを作りました。その結果、会員や会員外の方々と学ぶ養護やウェルビーイングに関するオンライン研修、学術集会でのプレコンgres、学会設立30周年記念事業、メーリングリストの作成、学会誌のHPへの掲載、編集関係の規程の整備などを行うことができました。その具体的な振り返りについては常任理事の記載をご覧ください。

会員の皆様のご理解とご協力、役員および理事・評議員の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

理事長 後藤ひとみ

○大川尚子総務担当常任理事(総務委員会委員長)

総務委員会は、本学会が法人化されたことを機に委員会規程に位置づけられ、2021年度より5名で発足しました。事務局は国際文献社に置き、大半の業務は委託していますので、主な仕事は庶務と会計承認です。

庶務の仕事は、諸規程の整備、理事会・代議員総会の開催準備と運営、理事会議事録・総会議事録の作成と学会誌等への掲載です。会計の仕事は、加藤理事に事務局長をお願いして、事務局が行う支出の承認管理と予算案の作成を行いました。また、今年度は選挙管理委員会が行う代議員選挙、理事候補者選挙を支援しました。

これら以外の取り組みとして、①2022年に30周年記念式典の開催や記念誌の発行、②2023年に開催した「養護教諭の倫理綱領」に関する意見交流会の運営、③「養護学の構築にむけたプロジェクト」メンバー決定の調整、④「子どもたちのウェルビーイングを支える」セミナーを広報委員会とともに企画・運営、⑤第32回学術集会のプレコンgres「今問われている、子どもたちのウェルビーイングを考えよう」の企画・運営等を行いました。

○鈴木裕子学術担当常任理事(学術委員会委員長)

学術委員会では養護教諭教育に関わる学術研究推進のため、学術集会や助成金研究・投稿奨励研究等の会員の研究支援といった定例活動の他、今期はメンバー4名で協力しあって、次の2つに取り組みました。

一つは2022年度事業計画に基づき、「養護」に関する検討推進に向けた下準備として、手探りで文献等の調査に取りかかりました。しかし対象範囲の絞り込みに難渋した結果、次のステップにつながる成果の提示ができなかったことが悔やまれます。

もう一つは第31回学術集会プレコンgres「養護教諭の専門性を支える学問について考えよう」の運営を担当したことです。一般発表演題区分の傾向等をふまえ、参加者間の課題の共有や交流ができたことは成果と言えます。

○山崎隆恵編集担当常任理事(編集委員会委員長)

編集委員会は8名で構成し、ハーモニー担当2名、学会誌の特集担当3名を置いて、学会誌編集に関しては第1号担当と第2号担当の小委員会委員長2名のもとで学会誌発刊時の校正を中心に行う小委員会委員各4名を依頼して計16名で取り組んでまいりました。

学会誌の役割と本学会の特色並びに社会的責任を意識してきましたが、特に論文の査読については、会員の皆様や会員外の専門家のお力を頂いて粛々と進めながら、掲載論文を増やしたり、論文の質を高めたりするため、機関紙ハーモニー第94号に投稿論文の「査読」について解説し、査読者による「査読結果の傾向」を載せました。並行して、投稿規程・投稿原稿執筆要領や査読要領(査読者向け手引)等の整備と改正を行いました。

会員の関心事に配慮しながら、社会情勢をふまえた記事等も臨機応変に取り上げるよう努めていたハーモニー担当、教育政策等に常にアンテナを張り巡らせていた特集担当者、査読や校正等で細やかな作業をしてくださった委員の皆様の多大なご尽力により今期の責任は果たせたと感じています。

○塚原加寿子広報担当常任理事(広報委員会委員長)

広報委員会は、本学会が法人化されたことを機に新設され、2021年度に4名で発足しました。主な仕事は、学会の広報活動とホームページの更新やメール配信による会員へのタイムリーな情報提供です。今期は、ホームページに既刊の学会誌を掲載し、さらにJ-stageへの論文の掲載を順次進めています。その他にも、総務委員会とともに「子どもたちのウェルビーイングを支える」セミナーを企画・運営し、第32回学術集会のプレコンgresでは「今問われている、子どもたちのウェルビーイングを考えよう」の運営を担当する予定です。これからも、多くの皆様が学会に興味を持っていただけるような情報発信が肝要と思っています。

理事会の議事について(報告)

総務担当常任理事 大川 尚子

ここでは審議事項のみを掲載しました。各理事会の議事録は、学会誌第 28 巻第 2 号(2025 年 3 月末発刊予定)に掲載いたします。

○ 2023 年度第 2 回理事会

1. 日 時: 2024 年 6 月 2 日(日) 10:00 ~ 12:10
2. 場 所: Web システムにて開催
3. 出席者: 理事 16 名(欠席 1 名)、監事 2 名
陪席(関係議事のみ): 第 32 回学術集会学会会長
4. 議 事<審議事項>
 - 1) 第 32 回学術集会(茨城)の開催要項案について
 - 2) 「日本養護教諭教育学会誌 投稿規程」の一部改正について
 - 3) 定款及び規程等の改正に関する意見について
 - 4) 「養護学の構築にむけたプロジェクト」の任期について
 - 5) 2023 年度事業計画に基づく会員等との情報共有や意見交流の場づくりについて
 - 6) 日本養護教諭関係団体連絡会からの文部科学省への要望書について
 - 7) 名誉会員の推薦について

○ 2023 年度第 3 回理事会

1. 日 時: 2024 年 9 月 29 日(日) 10:00 ~ 12:47
2. 場 所: Web システムにて開催
3. 出席者: 理事 15 名(欠席 2 名)、監事 2 名
陪席(関係議事のみ): 第 32 回学術集会学会会長
4. 議 事<審議事項>
 - 1) 第 32 回学術集会(茨城)の開催について
 - 2) ウェルビーイング研修と第 32 回学術集会におけるブレコングレスの企画(案)について
 - 3) 第 33 回学術集会(京都)について
 - 4) 第 4 回代議員総会(新代議員)について
 - 5) 第 4 回(2024 年度)定時総会(代議員総会)の議事項目について
 - 6) 規程等の改正作業について
 - 7) 2025 年度助成金研究の募集について
 - 8) 名誉会員の推薦について
 - 9) 「養護教諭の倫理綱領」について
 - 10) 教育関連学会連絡協議会への加盟について



事務局からのお知らせ

総務担当理事・事務局長 加藤 晃子

会員の皆様には、平素より学会運営にご理解とご協力を賜り深く感謝いたしております。

● 2024 年度年会費の納入をお願いいたします。

2024 年度の会計期間は 10 月 1 日から 2025 年 9 月 30 日までです。すでに、会員の皆様には年会費振込票をお送りしていますので、納入をお願いいたします。

● メール登録はお済みでしょうか。

オンライン研修会等の開催連絡をはじめ、タイムリーな情報提供のためにメールアドレスのご登録をお願いしています。

未登録の方は、至急、右の QR コードまたは学会 HP からお知らせください。



● 『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第三版>』の購入方法が簡単になりました。

右の QR コードまたは学会 HP のフォームをご利用ください。



● 既刊学会誌の学会 HP への掲載と J-stage への掲載を進めています。

第 26 巻第 2 号までの巻頭言、特集、研究論文、学術集会企画、要望書等を学会 HP にアップしました。

第 27 巻第 1 号・第 2 号は会員の皆様にはお届けしていますが、第 28 巻第 2 号の発刊(来年 3 月末予定)の後に HP に掲載いたします。

また、研究論文については、J-stage(科学技術情報発信・流通総合システム)による公表を順次進めています。HP での状況報告をご覧ください。

編集後記

ハーモニー第 95 号を発行するにあたり、ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

いよいよ第 32 回学術集会がハイブリット形式にて茨城キリスト教大学(日立市)で開催されます。本号の紙面には、多彩なプログラムを掲載しています。今年は、夏が長く秋の訪れが感じにくい気候でしたが、茨城の秋を楽しみつつ、会員の皆様との交流、そして学びを共に満喫したいものです。

また、今年度は、代議員改選の年となっています。一般社団法人となり、第 2 期の代議員が決まりました。第 1 期で担当していただきました各委員会の委員長より委員会報告も掲載しています。ハーモニーも今期を振り返り、また今後のビジョンを創造していきたいと思っております。皆様のお声も是非、お寄せください。

(西岡かおり)